

学校におけるSSWの ヤングケアラー支援

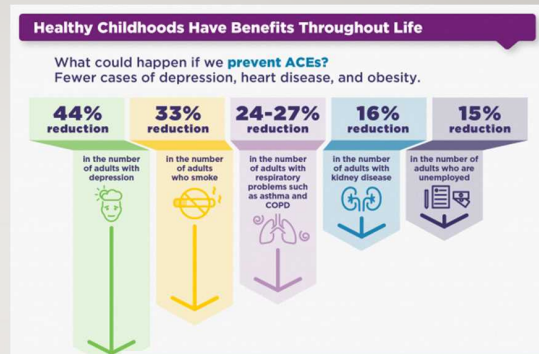
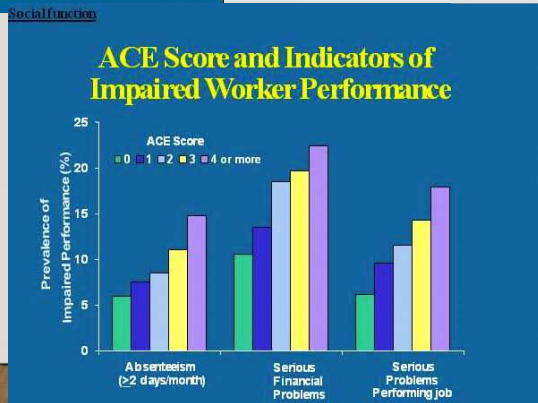
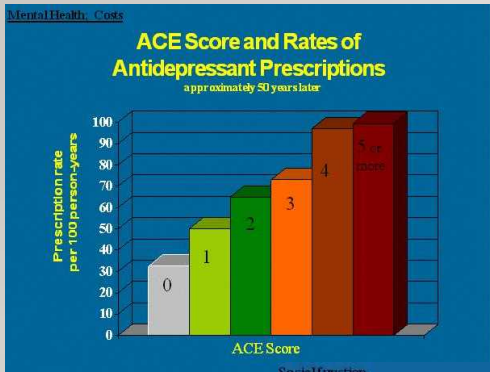
尼崎市・宝塚市・県立湊川高校スクールソーシャルワーカー

尼崎市ティーンズ応援ネットワーク

黒光 さおり

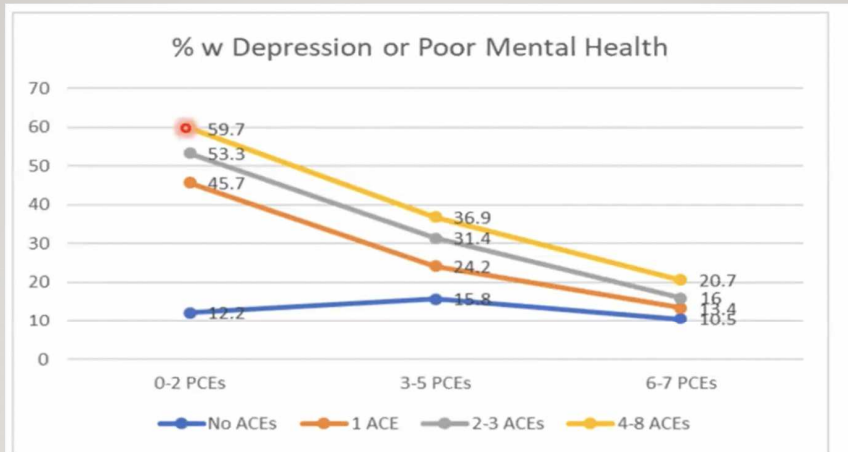
The CDC—Kaiser Permanent ACE Study 10項目

- 1、両親や大人の家族がよく、罵ったり、侮辱したり、悪口を言ったり、恥かかせたりしましたか？ケガさせられるんじゃないかと恐れるような振る舞いがありましたか？
- 2、両親や他の大人の家族がよく、押したり、つかんだり、平手打ちしたり、ものを投げたりしましたか？または、あざになったりケガをするほど叩かれましたか？
- 3、大人があなたより5歳以上の人が、性的なやり方で、体に触ったり、抱きしめたり、自分の身体を触らせたりしたことはありますか。口や肛門や膣に性器を挿入しようとしたことはありますか。
- 4、家族の誰からも愛されていない、自分が重要や特別に思われていないと感じることがよくありましたか？家族は高いに気づかったり、親しく感じたり、支え合ったりしていない、とよく感じましたか？
- 5、十分に食べていない、汚い服を着せられている、誰も守ってくれない、とよく感じていましたか？または親がアルコールや薬で酔っ払っていて世話をしてくれなかったり、医者に連れて行ってくれないとよく感じましたか？
- 6、家族の誰かが、大酒家であったり、アルコール依存であったり、薬物依存であったりしましたか？
- 7、両親が離婚や別居をしましたか？
- 8、母親や継母がよく、突かれたり、つかまれたり、叩かれたり、ものを投げられたりしたか。時々またはよく、蹴られたり、噛まれたり、拳で殴られたり、硬いもので叩かれたりしたか。または数分以上殴られ続けたり、刃物や銃で脅されたりしたか？
- 9、家族がうつやメンタルを病んでいたり自殺未遂をしましたか？
- 10、家族の誰かが刑務所に入りましたか？



Positive Childhood Experience 7項目

- 1、家族に自由にあなたの気持ちを話せると感じますか？
- 2、あなたの家族は、あなたが困難な時にそばにいてくれると感じますか？
- 3、地域の伝統的な行事を楽しみましたか？
- 4、高校生の時に、自分がその高校の一員であると感じましたか？
- 5、友だちによって支えられていると感じましたか？
- 6、両親以外に少なくとも二人の大人があなたのことを本当に興味をもってくれていましたか？
- 7、家にいる時は大人によって守られて安全だと感じましたか？



In summary:

- ⇒ Positive childhood experiences mitigate the effects of ACEs and buffer against toxic stress
- ⇒ Positive childhood experiences promote healing and recovery

JAMANETWORKより抜粋

CHRISTINA BETHELL, PHD, MBA, MPH; JENNIFER JONES, MSW; NARANGEREL GOMBOJAV, MD, PHD; JEFF LINKENBACH, EDD; ROBERT SEGE, MD, PHDS 2019年

5

ACEを減らすこと + PCEを増やすこと
= 全年代に必要な支援
 と考えて、支援しています。

• 家庭環境への支援

公的な制度やサービス
 (家族への高齢福祉・障害福祉・保健・経済支援等福祉サービスと育児支援)

地域でのつながり
 (家族が孤立せず、地域で活躍したり、同じ立場の仲間と集まる)

• YC本人への支援 (つながり)

専門職とのつながり
 (YCを理解する支援者とのつながり)

当事者同士でのつながり
 (安全安心なつながりであることが条件)

6

小学生ヤングケアラーの一般的な特徴

- 自分の家庭と一般的な家庭との違いがわからず、困っていることがわからない。
- 「何だかしんどい」と感じていても、言語化できないし、大丈夫と言ってしまう。
- 家族以外の人との繋がりが少なく、繋がることに警戒心がある児童が多め。
- 外に相談しないよう家庭で言い聞かされているか、言うてはいけないと思いついでいる
- 基本的な生活習慣が教えられておらず、身につけていない児童も多め
- 学習時間が少なく、家庭のフォローが受けられないことから、読み書き計算など学習の基礎を身につけにくい。
- 心身が大きく成長する時期だが、遊びや学校活動、習い事やスポーツなど多様な経験が積み上げられない。

小学生ヤングケアラーのリスク

- 宿題ができなかったり、忘れ物が多くなる→叱られやすい。怠けと思われやすい
- 遅刻や欠席が増えやすい→友達集団に入りにくい。授業についていけない。
- 生活習慣から、疲れやすく、眠い。→登校や学習モチベーションが低くなる。

不登校、孤立・・・「つながりの貧困」への悪循環へ。

学習面・運動面・対人スキルなどが発達しにくい。

家庭外に話せる大人とのつながりがつくりにくい。

高学年ではリストカットなど自傷行為に走ったり、SNSにつながりが偏る。危険なことに巻き込まれたり、リアルの体験がますます不足していく。

中学生ヤングケアラーの一般的な特徴

- 部活動に入れなかったり辞めることが多く、居場所が少ない
- 友人と話が合わなくなったり、行動パターンが違うことで、疎遠になりやすい
- 遅刻や欠席、宿題ができなかったり、塾に行けていないことから学習が遅れる。小学校での基礎学習が身につけていない生徒もいて、中学校での学習のスタート時点で差があいている。テストや成績で学習の遅れを強く自覚するようになる。
- 親以外の大人とのつながりが少ない。
- 小学生の頃と比べて、家事の種類や大人がするような手続きなど、精神的な負担の重い仕事が増える。
- 家庭ではほぼ大人・労働力として扱われるようになり、こどもでいられない。

中学生ヤングケアラーのリスク

- 周りの家庭との違いに気がついてきて、学校では家庭のことは言ってはいけないと思っている。
- 自己肯定感がさらに低くなってくる。
- 自分の進路や夢について諦めている。
- 自分の辛さに気づき、わかって欲しい気持ちが出てきているが、うまく話せないと思っている。

不登校、孤立・・・さらなる「つながりの貧困」への悪循環へ。

学習面で遅れ、進路の選択肢が少ない。家庭で進路のサポートが受けにくい。

友人が少なかったり、いじめや対人トラブルに巻き込まれやすい。

まだ、**SOS**を出すべき状態の判断は難しく、**SOS**を出すのが遅れてしまう。

リストカットなど自傷行為に走ったり、**SNS**につながりを求める。危険なことに巻き込まれたり、

リアルな体験がますます不足していく

高校生ヤングケアラーの一般的な特徴とリスク

- 自分の家庭のしんどさをはっきり自覚してくる
- 誰かに聴いてもらいたいと思っているが、わかってもらえる気がせず、なかなか相談しない。
- 高校では一般に教員との関係は薄くなる。
- 学習が難しくなるが、勉強時間がとりにくく、単位を落としやすい。
- 自分の進路と家族のケアの間で悩んでいる。
- バイト代で家計を助ける負担がプラスされることもある。バイトと勉強の両立の難しさ。

中退、ひきこもり、孤立・・・どんどん「つながりの貧困」への悪循環へ。

進路の選択肢が少なく、家庭で進路のサポートが受けにくいいため、あきらめる。

大人に近づき、支援対象から外れてきて、つながれる場所や制度が減る。

リストカットなど自傷行為に走ったり、SNSにつながりが偏る。危険なことに巻き込まれやすい

若者ケアラーの一般的な特徴

- 大学や専門学校に進んでも、学習時間が確保できず単位を落とす
- 就職したものの、ケアとの両立に追い詰められる
- 給与の多くを家計に入れることも。
- しんどさをはっきり自覚し、心身の症状に現れることも。
- 結婚や育児をした場合、家事や自分の育児と、実家のケアとのバランスとれず、育児支援も受けられない

ひきこもり、孤立、失業、実家と新家庭の家事、支援のない育児・・・「つながりの貧困」への悪循環。

進学しても卒業できず、奨学金の借金だけが残る場合も。

大人になったことで支援対象から外れ、相談窓口や使える制度が少ない。

ケアと仕事の両立ができず、失業して追い詰められる。

心身状態が悪化して、働けない場合、生活困窮になる。

各年代での特徴やリスクを踏まえた目標と現在対応する社会資源

年代	目標	社会資源
小学生	家庭環境・養育環境への働きかけ 学校が居場所になること 学習支援 家庭外に居場所ができること 本人も家族も、支援者となつながら、 自分で話す力、言語化する力をつける	児童福祉関係機関・民生委員等 担任・学年団・養護・SCなど 校内での学習支援、生活困窮者用学習支援 こども食堂やNPOの学習支援 各保健福祉関係機関 地域のカフェ、当事者会など対話の機会
中学生	学校が居場所になること 学習支援 家庭環境・養育環境への働きかけ 学校外に居場所があること 本人も家族も支援者と繋がること 似たような家庭環境の同世代と繋がること 自分で話し、人の話を聞くことの良さを知る。 言語化できる。 進路への早めの支援	担任・顧問・養護・SCなど 学校での学習支援・生活困窮者用学習支援 児童福祉関係機関・民生委員等 こども食堂やNPOの学習支援 各保健福祉関係機関 地域のカフェ、当事者会など対話の機会 高校用奨学金や幅広い進路の知識を持つ教員や支援者

13

年代	目標	社会資源
高校生	学校が居場所となること、中退しないこと。 学習できる場所がある 本人も家族も支援者となつながら。 学校外に居場所があること。 似たような環境の同世代となつながら。 自分の気持ち、しんどさを言語化できること。 納得がいく進路を選択すること。	教員、顧問、養護、進路担当、キャンパスカウンセラー ユースステーション、ユース交流センター ユースワーカー、各保健福祉関係機関、心療内科等 当事者会や地域のカフェ 家族以外の大人とのつながり
高校中退と 18歳以上	社会とのつながりの維持。 本人も家族も支援者となつながら。 似たような環境の同世代となつながら。 仕事や結婚と両立できるような家庭支援。 育児や家事のバックアップ。	各保健福祉関係機関、就労支援事業所、ハローワーク ユースワーカー、心療内科等 当事者会 子育て支援関係機関 地域の子育て支援、保健師、保育所等

14

実際に行っている具体的な支援

小学生への支援

- 校内・ヤングケアラーとしてのしんどさを含め校内でアセスメントを行い、校内支援体制をととのえる。
- 本人・クラスに入ったり教員を媒介して関係を作り、本人の気持ちや困り感を把握する。
 - ・地域の居場所やこども食堂、学習支援などに同行してつなぐ。本人が話せる人を増やす。
 - ・人と話したり、人に助けられたり、助けたりする経験を積めるよう、繋がりや調整を行う。
- 家庭・児童福祉関係機関の支援を促進するとともに、学校との役割分担、調整を行う。
 - ・必要に応じて使える支援や制度の手続きを支援する。
 - ・家族も当事者会や地域の居場所につなげる。
 - ・兄弟がいる場合は他校種とも連携する。

中学生への支援

- 校内・ヤングケアラーとしてのしんどさを含めて校内でアセスメントを行い、校内支援体制をととのえる。特に進路については家族の理解や本人の登校が影響するため、2年生ぐらいから校内で相談しながら、SSWや教員などで支援を開始。
- 本人・クラスに入ったり教員を媒介して関係を作る。
 - ・地域の居場所やこども食堂、学習支援などにつなぐ（こども食堂ではスタッフとして）
- 家庭・児童福祉機関や生活保護等と連携して関係を作るか、児童を通して関係を作る。
 - ・児童福祉関係機関の支援を促進するとともに、学校との役割分担、調整を行う
 - ・使える制度や手続きを支援する。
 - ・家族も当事者会や地域の居場所につなげる
 - ・兄弟がいる場合は他校種とも連携する

15

実際に行っている具体的な支援

高校生への支援

- 本人・クラスに入ったり教員を媒介して関係を作る。
 - ・各福祉機関や窓口につなぎ、支援の調整や連携をする。
 - ・ユース交流センター、心療内科などにつなぐ
 - ・地域の居場所やこども食堂、学習支援に同行してつなぐ。（スタッフとして）
- 家庭・児童福祉機関や生活保護等と連携して、児童を通じて関係を作る。
 - ・児童福祉関係機関の支援を促進するとともに、学校との役割分担、調整を行う
 - ・使える制度や手続きを支援する。
 - ・家族も当事者会や地域の居場所につなげる
 - ・兄弟がいる場合は他校種とも連携する
- 校内・ヤングケアラーとしてのしんどさを含めて校内でアセスメントを行い、校内支援体制を作る。特に進路について、早い段階から話し合ったり家族と調整する。

若者への支援

- 本人・ユースワーカー、引きこもり支援、NPO法人、心療内科、福祉の事業所や就労支援や精神保健など専門的な支援者につなげる。
 - ・地域の居場所やこども食堂、学習支援などに同行してつなぐ。（スタッフとして）
 - ・当事者会につなげる
- 家庭・本人を通じて、困りごとを把握し、使える制度や手続きを案内したり、相談窓口へつなげる。
 - ・家族も当事者会や地域の居場所につなげる
 - ・兄弟がいる場合は他校種とも連携する

16

「尼崎小中高生ヤングケアラー当事者会」 での取り組み例

- SSW 9名中7名のSSWと、コミュニティソーシャルワーカー、家庭児童相談室のワーカーが、自分の持ちケースのヤングケアラーを誘うクローズドの会。
- 目的①ヤングケアラーの児童に早い時期から安心な大人とつながり対話する力、SOSを出す力をつける
- 目的②ユース交流センター、こども青少年課、SSWの主催で、中学卒業後もつながれる体制づくり。
- 会の名前や説明に「ヤングケアラー」とは入れない。
- 夏休みなどは家庭の理解を得やすいように、宿題支援をアピール。
- 参加意欲や、主体性をあげるために、チラシに参加するこどもたちが書いたイラストを入れる。
- 安心安全な会にするため、大学生ボランティアなどへの事前オリエンテーション動画を配信し、情報共有を徹底している。
- 主体性をあげるため、事前準備にもこどもの力をかりる。
- 個人的にはつながれないが、Lineのオープンチャットを作成し、普段から話せる場を設定。

17

「尼崎小中高生ヤングケアラー当事者会」 での効果

- イベントに誘うための準備や家庭との話から、支援速度が促進。
- 事前準備や当日、何気ない会話やつながりができた。つながりの少ない児童が、大人とのつながりを楽しむことができた。
- 誘う際の家庭の様子、参加する様子など一連の流れの中でアセスメントが進んだ。
- 宿題支援では学力アセスメントができた。
- 本当に楽しい会になるか心配だったが、丁寧なかかわりの効果もあり、非常に楽しんでくれた。このような会の存在意義がわかった。
- CSW、ユース交流センター、家庭児童相談室、NPO法人、SSW同士などとの連携が促進された。全体の支援が後押しされた。
- ユース交流センターとの連携により、中卒後の見守りに結びついた。
- まだまだ誘いたい児童生徒がたくさんおり、孤立気味の児童生徒への対応が足りていないことが実感された。



18

各年代における支援における現在の課題

年代	課題
小学生	<p>重度ケースは児童福祉が家庭支援を行なっているが、児童の意見が反映されたり、児童自身のつながりを作るところまでなかなか至らない。</p> <p>中度ケースについては、十分に支援が行き届きにくい。家庭環境については学校での対処が難しい場合が多い。</p> <p>軽度ケースについては、発見ができていない。</p> <p>不登校やいじめなど他の問題行動で上がってくる児童について、ヤングケアラーとしての理解が進んでいない。ヤングケアラーについての教員研修が浸透していない（学校で福祉的な視点を持つSSWが必要だが不足）</p> <p>社会資源となる関係機関や人がヤングケアラーについて研修を受けていない。</p> <p>小学生が参加できるような当事者会はほぼない。</p>
中学生	<p>上記に加えて、</p> <p>進路については学校ではなかなか踏み込んで支援しにくい。</p> <p>いじめや校則違反などどうしても生徒指導がメインになり、福祉的な支援や視点をもちにくい。</p> <p>中学生が参加できるような当事者会はほぼない。</p>

年代	課題
高校生	<p>児童福祉関係機関からの支援から、外れてくる。</p> <p>相談できる場所や人、居場所も減ってくる。</p> <p>高校生が参加できる当事者会はほぼない。</p>
18歳以上	<p>学校などの所属がないと、カウンセリングも有料となり、コストが高く使いにくい。</p> <p>大人と見なされ、支援が必要と思ってもらえない。実際は心身が不安定で支援が必要な状況が持続することも多い。</p> <p>奨学金など借金を抱えていることが多い。</p>